

授業科目名	租税法	期別	前期	授業形態	講義
担当者名	芳賀 真一	単位数	2	開講年次	2

授業科目の概要

租税法の初歩から学び、租税法の全体像を把握する。租税法の基本的な考え方を身につけること、租税法の課題を知ること、租税法が抱えているジレンマを見つけること、租税法の問題について自分なりの意見を持つこと、それを表現できるようになること、を目標とする。

所得税法と法人税法を中心に、国際税法の基礎も扱う。当たり前すぎて教科書に載っていないところから考える。教科書で基本的なしくみを理解する。代表的な裁判例に目を通し、問題の原因や過去の解決方法、解決に至る考え方を確認する。立法資料を見て、立法の経緯や趣旨を確認する。ときには、論文等から、意見の相違を見つける。

到達目標

- ① 租税法の基本的な考え方を理解し、簡潔に説明できるようになること。
- ② 租税法が抱えるジレンマを理解し、簡潔に説明できるようになること。
- ③ 租税法の具体的な問題について、上記①②と関連付けながら、説明できるようになること。また、自分の意見を表現できるようになること。

成績評価基準および方法

上記目標①～③の到達度を、講義での取組・発言等（50%）とレポート等（50%）により評価する。

テキストおよび参考文献

教科書は指定しない。自分に合ったテキストを使ってほしい。以下、参考書の一部を紹介する。

- ・中里実ほか『租税法概説（第3版）』有斐閣、2018年。岡村忠生ほか『租税法』、2017年。
- ・増井良啓『租税法入門（第2版）』有斐閣、2018年。金子宏ほか『税法入門（第7版）』有斐閣新書、2016年。
- ・金子宏『租税法（第23版）』弘文堂、2019年。水野忠恒『大系租税法（第2版）』中央経済社、2018年。
- ・『租税判例百選（第6版）』有斐閣、2016年。『ケースブック租税法（第5版）』弘文堂、2017年。

履修上の留意点、準備学習等（事前・事後学習）

前提知識は必要ない。

毎回の講義の終わりに、予習問題と復習問題を提示する。

予習問題では、教科書・判例に目を通し、語句の意味や制度の概要と趣旨を確認する。

復習問題では、講義で学んだことを使って、文章を作る。

授業計画および内容等

第1回	（基礎） 租税法の意義	・租税とは何か。租税の目的は何か。租税にはどのような種類があるか。 ・租税法とは何か。他の法学との共通点と相違点は何か。 ・租税法ではどのような問いがなされ、それに対してどのように答えればよいのか。
第2回	（基礎） 租税法と憲法	・租税法律主義や租税公平主義はどのくらい大事か。解釈や立法にどう影響するのか。 ・租税法律主義や租税公平主義より大事なことはあるのか。 ・旭川市健康保険条例事件（百選2）、サラリーマン税金訴訟（百選1）ほか
第3回	（基礎） 租税法の解釈	・租税法の解釈において気をつけなければならないことは何か。 ・租税法と私法とは何か。租税回避の意図は、「住所」の判定に影響しないのか。 ・武富士事件（百選14）、事実婚「配偶者控除」訴訟（百選47）ほか
第4回	（所得税法） 所得概念	・所得とは何か。何が所得に含まれるのか。所得であるのに課税されないものは何か。 ・拾ったお金、盗んだお金、損害賠償金も、所得に含まれるのか。 ・利息制限法違反事件（百選31）、生保年金二重課税事件（百選32）ほか

第5回	(所得税法) 給与所得、 退職所得	- なぜ給与所得や退職所得について、独特の計算と課税がされているのか。 - プロ野球選手の年俸は給与所得か事業所得か。再雇用されるときも退職所得か。 - 弁護士顧問料事件（百選35）、10年退職金事件（百選38）ほか
第6回	(所得税法) 譲渡所得	- 譲渡所得課税は、所得税のアキレス腱といわれる。どのような特徴があるのか。 - なぜ無償で資産を譲渡して対価を受け取っていないときにも譲渡所得が生じるのか。 - 割賦弁済土地譲渡事件（百選39）、財産分与事件（百選42）ほか
第7回	(所得税法) 必要経費、 取得費、 損益通算	- 必要経費とは何か。どこからどこまでが必要経費か。 - なぜ、29億円かけて30億円稼いだら、6億円も税金を払わなくてはならないのか。 - 支払利子付随費用判決（百選43）、はずれ馬券事件（百選88）ほか
第8回	(所得税法) 人的帰属、 年度帰属	- 誰の所得か。どの年度の所得か。 - 息子が、父親の土地を賃貸し、5年後に一括で賃料を受け取った。誰のいつの所得か。 - 弁護士夫婦事件（百選30）、仙台賃料増額請求事件（百選67）ほか
第9回	(法人税法) 法人税の性質	- 法人の所得とは何か。資本等取引とは何か。法人税の二重課税とは何か。 - 法人と法人ではないものの区別はどこか。法人の所得に課税する根拠は何か。 - 同族会社の行為計算の否認（百選60）、デラウェア州LPS事件（百選22）ほか
第10回	(法人税法) 法人税法と 企業会計	- 企業会計上の利益と法人税法上の所得との共通点と相違点とは何か。 - 脱税工作金や賄賂も損金に算入できるのか。 - エス・ヴィ・シー事件（百選51）、大竹貿易事件（百選62）ほか
第11回	(法人税法) 益金	- 益金とは何か。無償取引とは何か。資本等取引とは何か。 - なぜ無償で資産を譲渡したり役務を提供したりすると益金が生じるのか。 - 南西通商事件（百選49）、オウブンシャ・ホールディングス事件（百選51）ほか
第12回	(法人税法) 損金	- 企業会計上の費用と法人税法上の損金の違いは何か。 - なぜ子会社を支援するための支出が損金にならないのか。 - NTTドコモ事件（百選54）、興銀事件（百選55）ほかほか
第13回	(国際課税) 国際的二重課税	- 国際取引には、どの国でどのように課税されるか。なぜ二重課税が生じるのか。 - 二重課税を排除する方法として、どのようなものがあるか。 - シルバー精工事件（百選67）、りそな銀行事件（百選18）ほか
第14回	(国際課税) 国際的租税回避	- どのような租税回避の手法があるか。どのように租税回避は対応されるのか。 - アップル、グーグル、スタバなどは、どのように税金を安くしているか。 - グラクソ事件（百選70）、アドビ事件（百選71）ほか
第15回	(基礎) 租税回避の否認	- 租税回避とは何か。事実認定による否認とは何か。解釈による否認とは何か。 - 租税回避はどのようなときに裁判で否認されるのか。 - 相互売買事件（百選17）、フィルムリース事件（百選19）ほか
関連 URL		
備考欄		